



## 世界を知る ～It know the world～

このページでは、「世界を知る」をテーマに独立行政法人国際協力機構(JICA)デスク熊本や、国際交流・協力分野で活躍している皆様のご協力を得て、日本で生活する私たちには日常知ることができない興味深い世界の状況を紹介します。

### 世界と自国の縁を知る -マーシャルと日本の100年-

青年海外協力隊OG 榎 浩美さん

(H25年10月～H27年10月 マーシャル諸島共和国派遣 小学校教育)

みなさんは、マーシャル諸島共和国という国を知っていますか？

太平洋のグアムとハワイの中間辺りに位置するサンゴ礁でできた国、それがマーシャル諸島共和国です。29の環礁と5つの独立した島はそれぞれがとても小さく、太平洋という大きな海原に散りばめられているように並んでいるため、「真珠の首飾り」とも呼ばれています。人口は約6万人で首都のマジュロ環礁に国民の半数が住んでいると言われていたのですが、そんな首都でさえ、10平方キロメートル以下の小さな環礁となっています。サンゴ礁でできているため、それこそネットワークのような独特な形をしており、端から端まで車で2時間程度で行くことができます。

このように小さな小さなマーシャル諸島、多くの日本人がその存在を知らずにいると思われそうですが、実は100年前から深いつながりのある国なのです。マーシャル人の中に日本との関係を知らない人はほとんどおらず、今でもそのつながりを大切にしている印象を受けます。マーシャルの人々は人の親日家で、日本人だと分かるととても友好的に接してくれるのです。

今から100年前、世界では第一次世界大戦が起こり、太平洋の多くの島々は欧米列強に支配されるようになりました。大戦で負けたドイツに代わり、マーシャル諸島を統治するようになったのが日本でした。日本軍は基地をかまえ、多くの軍人が島に住みつき、マーシャル人と結婚して家族を持つ者もありました。

戦前戦中の出来事ということで厳しい環境だったのではないかと想像されますが、マーシャル人に当時の話を聞くときまって「日本人はいい人だった」という話になります。100年もの年月が当時のことを脚色している可能性もありますが、日本のことを悪く言うマーシャル人が全くいないというのは、マーシャルと日本の関係がとても良いものだったことを物語っていると思います。日本の軍人とマーシャル人女性の間に子どももできたため、日本人の血が入っているマーシャル

人も多くおり、彼らは日本名の苗字を誇らしげに名乗っています。カネコさん、ヤマムラさん、ナカムラさんなど、私の知り合いにもたくさんいますし、著名人にも日本名をもつ方は多く存在します。

また、たくさんの日本語がそのままマーシャル語として日常に残っています。チャンポ（散歩）、ジョーリ（草履）、エンマン（円満）など。ヤシの木の葉を使った伝統工芸品の名前さえもアミモノ（編み物）と日本語を用いています。その他にも多くの言葉が100年経った現代でも日常で何気なく使われている状況は、とても不思議で、日本との深い縁を感じるものでした。

世界には、マーシャルのように日本と深いつながりをもつ国がたくさんあります。日本に関心をもっている人もたくさんいます。そのような国や人々のことを知り、文化的な交流をとおして縁をさらに深めていくことは、相手の理解だけでなく、自国である日本のことを見つめ直すきっかけとしてもとても意味のあることだと、マーシャルでの暮らしを通して感じました。



日本軍基地の戦跡↑



↑ 錆びついたレンヂで遊ぶ子ども